

研究所だより

第357号
2016年 1月14日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015

2016年 迎春
本年も宜しくお願い致します



3学期を迎え、子ども達も教師も夢を持ち、希望に燃え、やる気に満ちあふれているのではないのでしょうか。

☆家庭学習ノートについて（その1）
～全国学力・学習状況調査連続日本一の秘密～「秋田県式家庭学習ノート」とは？
（参考資料：勉強グセと想像力が身につく秋田県式家庭学習ノート）

秋田県の小中学生が2007年（H19年）から再開された「全国学力・学習状況調査」で常にトップクラスという結果が公表されてから、秋田県の教育に注目が集まっています。注目されている取組の一つに「家庭学習ノート」の存在がありました。「家庭学習ノート」とは？授業で使用するものとは別に、家で勉強する際に使用するノートです。平成27年度児童生徒質問紙の「家で学校の授業の復習をしていますか」という項目において、秋田県の小学6年生は「している」「どちらかといえばしている」の合計が、全国平均を35.7ポイント(90.2%)上回っていました。
（全国平均：54.5% 本市：81.1%）

- 実際に活用している小学校の教師からは
- ・「習慣は毎日の積み重ねによって定着するものです。ですから、毎日提出するように決めています。」
 - ・「子どもだけにやれというのでは、なかなか続きません。周りもやって当たり前という意識を持っていないと習慣にはなりませんので、保護者会でも呼びかけたり、プリントを配布して協力を得ています。」

☆家庭学習ノートのメリットは

- (1) 毎日の家庭学習をサポートする決まった時間、もしくは一定の課題を解くことを繰り返すことによって、家庭学習の習慣が身につく。
- (2) 基礎力アップ漢字練習や計算ドリルなどを毎日繰り返すことによって、粘り強く取り組む姿勢と基礎力がアップする。
- (3) 子どもの学習段階が把握できる。子どもが教科書のどの部分を習っているのか把握することができる。教科の進み具合、授業についていけるかどうかを推察できる。
- (4) 創造性とプレゼンテーション能力が養われるドリルなどのほかにも、「好きな教科の好きなことについてまとめなさい」とテーマ選びから自由に取り組ませることで、得意科目を伸ばすきっかけ作りができる。調べたことをわかりやすくまとめるための工夫をすることによって、プレゼンテーション能力が高まる。
- (5) コミュニケーションツールとしても有効。教師や親が子どもの取り組みに対して、毎回コメントを返すことで、「自分を気にしてくれている」という安心感を与えることができる。また、子どもの取り組みや姿勢など書いてある内容から、その日のコンディションが見えてくる。

1. 今日からできる家庭学習ノート

(1) 現場の教師からのアドバイス

- 子どもと一緒に取り組む
先ず保護者がコーチ役を果たすという意識を持つこと。その取り組みは、子どもと一緒に学習習慣を身につける良いチャンスになるはず。家庭学習の習慣づけに必要なのは、ノートと鉛筆、親の愛情。それがそろえば、子どものやる気も育ちます。
- 勉強を楽しむ仕掛けづくりを
勉強するのが楽しくなるような仕掛けづくりがあればいい。チェックする際にシールやスタンプを使うと子どもは喜ぶ。意欲を持たせやすくなります。
- 初めはハードルを低く
先ずは継続することを目的と考えましょう。最初のハードルは低く、低く設定しましょう。少しずつ高くしていくように心がけてください。初めのうちは、やったらほめる。それくらいの心づもりで取り組むと、子どももついてきます。学力アップへの取り組みは、マラソンのイメージ。
- 頑張ったら認めて、ほめる
子どもは、ほめられると喜ぶ。やる気をそぐのも言葉、やる気にさせるのも言葉です。やたらとほめるのではなく、頑張ったことに対して認めてあげる言葉をかけよう。
- ときには失敗もOK
「ついしかってしまいました」とノートにコメントが記されていることもあります。たとえ失敗談でも記録しておけば、あとで振り返って自分を客観視することもできます。家庭学習ノートは、子どもの成長記録でもあり、保護者の成長記録でもあります。
- 自由テーマで得意な教科を伸ばす
基礎づくりももちろん大事なことです。得意な教科を伸ばすのも子どもにとって喜びのひとつ。

(2) 習慣づけのポイントを活用する

- 秋田市内城南中学校区内の3小学校研究主任が作成したプリント『家庭学習のススメ』家庭学習の基本的な考え方（約束）
- ①勉強に向かう心構えをしっかりとつくる（学習のめあてを持つ）
 - ②時間を決めて毎日取り組む（学年×10分以上）
 - ③家庭学習のやり方を理解する（必ず丸つけをし、間違いは直す）
 - ④「ながら」勉強はしない（音楽、テレビは消す）
 - ⑤しつけから自主自立へ（初めは強制でも、続けることで自分流の学習ができるようになる）
 - ⑥リズムある生活・規則正しい生活をする（十分な睡眠・朝食・ルールとして決めたテレビやゲームの時間など）
 - ⑦子どもの頑張りを認めてあげ、ほめてあげる
 - ⑧子どもがいつでもたずねられるところにいる
 - ⑨親子のふれあいの場にする（親子読書・対話・得意なことをほめる）

(3) ごほうびを利用する

「自分は人から何かを与えてもらうために勉強するのではなく、自分を喜ばせるために自分ができることをごほうびとして設定する」

《各種提出物》締切：1月29日（金）
・研究集録原稿、総括教研部会報告書・事業実績報告書